

兩國お茶の水間高架鐵道工事に就て

鐵道省東京第一 橋 本 敬 之
改良事務所長

日本最初の高々架驛を帝都の中央に現出する兩國御茶の水間連絡鐵道工事は、鐵道省が失業救済事業の一として其速成を期すると言ふ意味に於て注目されるのみならず、工事施工に於て幾多の新味を有するものである。(編者)

兩國お茶の水間連絡の急務を認め、改良計畫に於て之が布設の決定を見たのは既に七年の昔である。其後復興局に依頼して、佐久間町以外の線路用地買収をすませ、残りの部分は、昨年度から用地買収にかゝつて既に全部の家屋移轉をすませて居る。

工事は今年度から年度割が始つてゐるが、工事費の関係上、差當り隅田川橋梁から着手する事になつて、既に先月下構は清水組に上構は横河橋梁製作所に落札し、來年二月末には全部竣工の豫定になつてゐる。残りの工區も成る可く年度内に起工する準備を運ばせてゐるが、偶々帝都に於ける失業救済事業として、全線六百五十萬圓の豫算を以て、六年度に於いて急速に施行しようとする案が立てられ、最近愈々具體化したのである。

工事の概要を述べると、先づ兩國驛では現在の汽車驛の南側にならんで電車の高架驛が出来る。總武線で汽車から降りた客は中二階の廊下を通つて此の高架驛に昇り電車に乗りうつる事ができる。市内の客は兩國驛前ガード下とホーム下右側の街路の双方から入る事が出来るようになる。此高架驛から線路は復線でお茶の水迄直通するが、横網の驛通りには全長百十米突の橋がかゝり、隅田川には中央徑間九十六米突、兩翼徑間三十八米突のタイド・アーチ型の橋が架る。形は一吋永代橋

を小さくしたようなものであるが、アーチリブはずつときやしやになつてゐて一見して優美な感じを與へる格好であるから、完成後は市の兩國橋と並んで隅田川に一景觀を添へることであらう。

次は六米徑間の連続スラブ橋で柳橋の花街を中斷し、長三十六米突のガーダーで淺草橋の大通りを越へ、其所に淺草驛が出来る。驛の入口は無論大通りに添ふて出来るのであるが、西端の左衛門橋通りの方にも出入口が出来る筈である。それから同じスラブ橋で美倉橋通り迄行つて、そこからは現在の秋葉原驛の上を直角に乗り越す爲に、四十分の一勾配で昇つて、昭和通りは徑間四十四米突のガーダーで越へ、秋葉原では現在驛の眞上に、地面から四十八尺位の高さに新線の驛が出來て、此所で市街線と二階三階の関係で相互に乗換が出来る様になる。市内からの乗客は現在の市街線秋葉原驛前と昭和通の双方から直接エレベーターか、或はエスカレーターかに依つて此驛に上る事になるであらう。

秋葉原から先は第二改良事務所の管内になる筈で、萬世橋通を三十三米突の橋で越へ、それから四十分の一で少し下つてから、昌平橋の附近で神田川を斜かひに渡り、現在の上下中央線と立體交叉をして、上下線の間に入り、それから現在の中央線と復々線の関係になつてお茶の水驛に入る豫定であるが、新連絡驛としてのお茶の水驛は現在驛より少し東に寄り、丁度お茶の水橋と聖橋との間に出来る事になる。

御茶の水兩國間設計概要

一、線 路 高架復線

